

## 令和3年度地域日本語教育推進事業業務委託契約書（案）

山梨県（以下「甲」という。）と〇〇〇〇〇とは、（以下「乙」という。）とは、令和3年度地域日本語教育推進事業業務について、次のとおり委託契約を締結する。

### （委託業務）

第1条 甲は、令和3年度地域日本語教育推進事業業務（以下「委託業務」という。）の実施を乙に委託し、乙はこれを受託するものとする。

### （委託業務の内容）

第2条 乙は、別紙仕様書により委託業務を実施しなければならないものとする。

2 前項の委託仕様書に定めのない事項については、甲乙協議して定めるものとする。

### （委託期間）

第3条 この契約による委託期間は、契約の日から令和4年3月10日までとする。

### （委託料）

第4条 甲は、委託業務に対する委託料として、金 円（うち消費税及び地方消費税相当額金 円）を上限として乙に支払うものとする。

### （契約保証金）

第5条 甲は、山梨県財務規則（昭和39年山梨県規則第11号。以下「規則」という。）

第109条の2第7号の規定により、乙が納付すべき契約保証金を免除するものとする。

### （権利義務の譲渡等）

第6条 乙は、この契約によって生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、あらかじめ甲の書面による承諾を得た場合は、この限りでない。

### （再委託の禁止）

第7条 乙は、委託業務の全部の処理を第三者に委任又は請け負わせてはならない。

ただし、契約業務の一部を委託する場合については、あらかじめ甲の承諾を得ること。

### （秘密の保持等）

第8条 乙は、委託業務の遂行上直接若しくは間接に知り得た秘密を外部に漏らし、又は他の目的に利用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

(個人情報保護)

第9条 乙は、この契約による事務を行うため個人情報を取り扱う場合は、別記1「個人情報取扱特記事項」を遵守しなければならない。

2 前項の規定は、第7条により再委託先にも適用する。

(情報セキュリティの確保)

第10条 乙は、この契約による事務を行うにあたり、本契約の業務処理にあたっては、別記2「情報セキュリティに関する特記事項」を遵守しなければならない。

(調査等)

第11条 甲は、乙の委託業務の処理状況について調査し、若しくは必要な報告を求め、又は委託業務の実施に関して必要な指示を乙に与えることができるものとする。

(実績報告および検査)

第12条 乙は、委託業務が終了したときは、速やかに仕様書に基づく報告書等を甲に提出し、甲の命じた職員の検査を受けなければならない。

2 甲は、委託業務が仕様書に示すものに適合していないと認める時は、期日を定めて業務の手直しをさせることができる。この場合の費用は、乙の負担とする。

3 甲は、第1項に規定する報告書等の検査により委託料の支払額を確定し、これを乙に通知するものとする。

4 前項の委託料の支払額は、委託事業に要した経費の実支出額と第4条に規定する委託料の上限の額とのいずれか低い額とする。

(委託料の支払)

第13条 乙は、前条の規定による額の確定通知を受けた後、甲に対して委託料の支払を請求するものとし、甲は乙からの適法な請求書を受領したときは、その日から30日以内に委託料を支払うものとする。

2 甲が、その責めに帰すべき事由により、前項の支払期限までに委託料を支払わない場合は、遅延日数に応じ、未支払金額に対し、政府契約の支払遅延防止等に関する法律(昭和24年法律第256号)第8条第1項の規定により財務大臣が決定する率を乗じて計算した金額を、遅延利息として乙に支払うものとし、その端数計算については同条第2項の規定による。

(前金払)

第14条 前条第1項の規定にかかわらず、委託業務を行うため甲が必要があると認めるときは、乙は第4条に規定する委託料の額の2分の1を上限として、最大1回まで前金払を請求できるものとし、甲は乙からの前金払に係る適法な請求書を受領したときは、その日から30日以内に委託料を支払うものとする。

(契約解除による委託料の返納)

第15条 乙は、第17条又は19条の規定により、契約期間満了前に本契約を解除された場合において、前金払により支払を受けた委託料のうち契約期間の残余の期間に充当されるべき金額を甲に返納しなければならない。この場合において返納すべき金額は日割り計算によるものとする。

- 2 乙は、当該金額を契約解除の日から30日以内で甲の指定する日（以下「返納期限」という。）までに甲に返納しなければならない。
- 3 乙が、その責めに帰すべき事由によって、返納期限までに当該金額を支払わない場合は、遅延日数に応じ、年2.6パーセントの割合で計算した額を延滞違約金として甲に支払わなければならない。ただし、延滞違約金の全額が百円未満であるときは、この限りでない。

(履行遅延違約金)

第16条 乙は、その責めに帰すべき事由によって、履行期限までに委託業務を完了することができない場合は、遅延日数に応じ、委託料（遅延による支障が少ないと認められるものにあつては、未履行部分に相当する額）に対して、民法（明治29年法律第89号）第404条の法定利率を乗じて得た額を延滞違約金として甲に支払わなければならない。ただし、履行遅延違約金の全額が百円未満であるときは、この限りでない。

(契約の解除)

第17条 甲は、乙が次の各号の一に該当するときは、催告することなくこの契約を解除することができる。

(1) 委託期間内にこの契約を履行しないとき、又は履行の見込みがないと明らかに認められるとき。

(2) この契約の履行に当たり、不正な行為があると認められるとき。

(3) 第19条の規定によらないで、この契約の解除の申出があったとき。

(4) その他契約上の義務を履行しないと認められるとき。

(5) 乙又は乙の役員等が、次のいずれかに該当する者であることが判明したとき、又は次に掲げる者が、その経営に実質的に関与していることが判明したとき。

ア 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）

イ 暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）

ウ 自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどした者

エ 暴力団又は暴力団員に対して資金等を提供し、又は便宜を供与するなど、直接的若しくは積極的に暴力団の維持・運営に協力し、又は関与している者

オ 暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有している者

カ 下請契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約に当たり、その相手方が上記アからオまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結した者

- 2 前項の規定によりこの契約が解除された場合は、乙は、違約金として委託料の100分の10に相当する金額を甲に支払うものとする。
- 3 第1項の規定によりこの契約が解除された場合には、乙は、甲にその損失の補償を求めることができない。

#### (危険負担)

第18条 委託期間中に委託事務の処理に関して生じた損害（第三者に及ぼした損害を含む。）については、乙が負担する。ただし、その損害のうち甲の責に帰すべき理由により生じたものについては、甲が負担する。

#### (不可抗力による損害)

第19条 乙は、天災その他の不可抗力により、重大な損害を受け、契約の履行が不可能となったときは、甲に対し、遅滞なくその理由を詳細に記した書類を提出し、この契約の解除を請求することができる。

- 2 甲は、前項の請求を受けたときは、直ちに調査を行い、乙が明らかに損害を受け、これにより契約の履行が不可能となったことが認められる場合は、乙の契約解除の請求を承認するものとする。

#### (契約の費用)

第20条 この契約の締結に要する費用は、乙の負担とする。

#### (著作権の譲渡等)

第21条 乙は、引渡しを完了した成果品の全ての著作権（著作権法第21条から第28条に規定する権利をいう。以下同じ）を、甲に無償で譲渡するものとする。

- 2 乙は、成果品に係る著作権者人格権を行使しないものとする。なお、著作権者人格権を行使しようとするときは、甲の承諾を得るものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、成果品に乙が既に著作権を保有している著作物がある場合、乙が既に著作権を保有している著作物の著作権は、なお乙に帰属するものとする。

#### (管轄裁判所)

第22条 この契約について訴訟等の生じたときは、甲の事務所の所在地を管轄する裁判所を第1審の裁判所とする。

#### (契約に定めのない事項)

第23条 この契約に定めのない事項及びこの契約に関し疑義が生じた事項については、規則の定めによるものとし、なお、疑義があるときは、甲と乙とが協議して定めるものとする。

この契約の締結を証するため、この契約書を2通作成し、甲乙両者記名押印の上、各自その1通を保有するものとする。

令和3年 月 日

甲 山梨県甲府市丸の内一丁目6番1号

山梨県知事 長崎 幸太郎

乙